

家庭菜園相談室

今月のテーマ

春夏野菜の栽培が本格スタート!

日中の日差しも暖かく感じる日が多くなり、野菜も急速に生長しはじめる時期となりましたが、まだまだ霜の被害も心配です。今回、ご紹介するスイートコーンとブロッコリーは、トンネルなどで寒さ対策をすれば、3月からでも十分栽培が可能です。

スイートコーン(イネ科)

栽培適性: pHは、5.0~7.0。排水の良い肥沃な土壌を好むが、栽培できる土壌の範囲は広い。

連輪作: 連作障害は少なく、後作への輪作効果も優れる。

栽植密度: 畝幅80 $\%$ 、条間50 $\%$ の2条、株間30 $\%$ 、畝高10~15 $\%$

畑の準備: 播種の2週間前に苦土石灰100 g/m^2 と完熟たい肥1 kg/m^2 を、播種の1週間前に化成肥料120 g/m^2 を施す。マルチ栽培を基本とし、早植えは寒さ対策としてビニールトンネルも併用する。

播種: 1穴に2粒播種し、播種後は約2 $\%$ の厚さで覆土を行い、発芽するまでは土が乾かない程度でかん水をする。本葉3~4枚で1株にするが、引き抜くと残す株の根を傷めるので、ハサミなどで株元から切り取る。

トンネル: 3月播種の場合は、厚さ0.05 $\%$ のビニールでトンネルをし、換気は本葉3枚ごろから開始する。日中の温度は30 $^{\circ}\text{C}$ 以下に保つ。葉がトンネルの上部に接するようになったらビニールを除去する。

追肥: 本葉6~8枚ごろと雄穂出穂期にそれぞれ追肥(化成肥料30 g/m^2)をマルチ上部から行う。

防除: 最重要害虫は、アワノメイガである。3月播種では発生が少ないものの、4月播種は発生が多くなるため、雄穂の出始めるころから下記の薬剤を1週間間隔で2~3回散布する(表1)。

収穫: 穂先の1~2粒がやや未熟で白く乳状の果汁がでる頃が収穫適期であり、絹糸抽出後20~25日を目安とする。

図1 作型目安



● 播種(保温) ○ 播種 ▲ 定植(保温) △ 定植 ■ 収穫

表1 スイートコーンに登録があり、アワノメイガに効果のある薬剤

農薬名	適用病害虫名	希釈倍率	散布液量	使用時期	使用回数
プレバソフロアブル5	アワノメイガ	2000倍	100~300L/10 $\%$	収穫前日	3回
トレボン乳剤	アワノメイガ	1000倍	100~300L/10 $\%$	収穫7日前	4回

*2月5日現在の登録内容であり、使用前に必ず使用基準などの登録内容をラベル等で確認してから散布すること

ブロッコリー(アブラナ科)

栽培適性: pHは、6.0~6.5。排水性や保水性が良く、肥沃な土壌を好む。過湿に弱い。

連輪作: 1~2年以上の輪作が良い。連作により根こぶ病が発生しやすい。

栽植密度: 畝幅100 $\%$ 、条間50 $\%$ の2条、株間30 $\%$ 、畝高10~20 $\%$ (耕土が浅い場合は高畝にする)

畑の準備: 植えつけの2週間前に苦土石灰100 g/m^2 と完熟たい肥1 kg/m^2 を、植えつけの1週間前に化成肥料120 g/m^2 を施す。

植えつけ: 葉数が3~4枚の苗を植えつける。ブロッコリーは低温で花芽分化するため、サクラの開花前に定植する場合は、トンネル被覆をした方が良い。早植えでトンネルをしないと早期に花芽分化をし、小花蕾になりやすいため注意する。

追肥: 春植えでは小花蕾を避けるため初期生育を確保することが重要となり、追肥(化成肥料40 g/m^2)は中耕もかねて早めに(定植から10日~20日後)行い、栽培後半まで肥料が残らないようにする。

収穫: 収穫時期は、5月下旬~6月中旬で高温・多雨の影響で腐敗が発生しやすい。春植えは収穫適期が短いため花蕾がみえたら良く観察し、花蕾が直径12~14 $\%$ になったら、15 $\%$ 程度の長さで収穫する。側枝型の品種は頂花蕾収穫時に追肥(化成肥料30 g/m^2)をすると良い(図2)。

図2
ブロッコリーの
側枝の収穫

頂花蕾を収穫したら追肥。
側枝花蕾も順次
大きくなり次第収穫できる。



花蕾が大きくなったら蕾から花弁が見えるようになるまでに収穫。

家庭菜園に関する相談は、TAC(タック)、支店営農経済担当者までご連絡ください。